

令和4年度 第74回卒業証書授与式式辞

令和5年3月1日(水)

厳しかった冬の寒さも日ごと和らぎ、校内の木々も、新たに来るべき春に備え、枝を広げ木の芽を膨らませた今日の佳き日、御来賓並びに保護者の御臨席を賜り、令和四年度愛媛県立川之江高等学校全日制課程第74回卒業証書授与式が挙行できますことは、卒業生をはじめ在校生並びに教職員一同の大きな喜びであり、厚く御礼申し上げます。

ただ今、めでたく卒業証書を授与された一七三名の皆さん、御卒業おめでとうございます。本校における三年間の修学に対して重ねてきた皆さんの努力に敬意を表するところであります。また、この日を待ち望んでこられました保護者の皆様に対しまして、心よりお慶びを申し上げます。

振り返りますと、皆さんが入学された一昨年の春以降、日本はもちろん、全世界にとって新型コロナウイルスのまん延が脅威となり、学校現場にも大きな影響がありました。入学早々の臨時休業、学校行事の中止・縮小、さらに部活動においても活動の制限や各種大会・コンクールの中止等、やりきれなさや喪失感を埋めるのは簡単ではなかったと思います。悔しさを胸の内にしまい、前を向くという強さを発揮するとともに、当たり前が当たり前ではなく、ありがたいことだったということに気づき、感謝することの大切さを学んだことと思います。また、そのような状況の中、皆さんと我々教職員が工夫し、検討しながら、手を携えて、より良い学校生活を模索したことは、皆さんにとっても、我々教職員にとっても大きなプラスになったに違いありません。お互いを気遣い、思いやること大切さについても学ぶことができたのではないのでしょうか。

さて、四月以来一年間皆さんに一貫してお話ししてきたことがあります。一つ目は、あいさつを大切にすること。あいさつには「心を開いて、相手と接し、相手の心を気遣う、思いやる」という意味があります。ぜひ、相手を思いやり、相手の考え方を受け入れ、相手の考え方を尊重するという気持ちを大切にしてください。

社会に出ると、皆さんの人間関係は大きく広がっていきます。「あいさつ」は、人間関係を豊かに、そしてスムーズにしてくれます。ここでいう「あいさつ」とは、「おはようございます、こんにちは、失礼します。」等の今までも当然投げかけていたような言葉でのあいさつのみを指しているわけではありません。「相手と向き合う中で、相手を思いやり、相手の考え方を受け入れ、相手の考え方を尊重する」、このようなことを大切にしてほしいと願っています。

二つ目が、自分なりに「希望（ゆめ）」・「好奇心」を持って何かにチャレンジしてほしいということです。失敗してもいい、「なぜ？、どうして？」という思い、すなわち「好奇心」を持って知ろうとする気持ちが皆さんを成長させる原動力になることは間違いありません。もちろん「希望（ゆめ）」や「好奇心」を持って新しいことや困難なことにチャレンジした結果、失敗に至るかもしれません。そうなったとしても、そのチャレンジの過程には大きな意味があると考えます。そこからは、同じ失敗を繰り返さないという強い決意、成功に導くための思考力や工夫、実践力が生まれてくるからです。チャレンジしようという意志、挑戦しようとする勇気が未来を拓くはずです。

この川之江の地に生をうけた江戸時代後期の朱子学者である尾藤二洲が自らを謹み戒めるために記した「座右十戒」は我々が社会生活を送るうえで多くの示唆を与えてくれます。現代語訳にして皆さんに

紹介したいと思います。「一 何かをする時にはそのことに集中しなさい、一 頑固にならないで人のいいところを見習いなさい、一 動作は控えめにしてえらそうにしないこと、一 言葉は簡単にして喋りすぎないこと、一 何かをする前にまずその善悪を考えなさい、一 物に接する時は正しい方法を選びなさい、一 全てのことに於いて機会を逃さないようにしなさい、一 たった一つであっても決まりを破らないこと、一 みんなといる時は人の意見に流されないこと、一 一人でいる時も憤みを忘れないこと」。この中から二つのことを取り上げてみます。一つは「頑固にならないで人のいいところを見習いなさい」という一説です。これから皆さんには多くの出会いがあると思います。皆さんと接する人たちの長所や良さ、自分に足りないなと思う部分、こうすればもっと自身の成長に繋がるはずだと考えること等、相手のマイナス面に心を向けるのではなく、人のいいところを見習い、人のいい部分に注目してください。そのような気持ちで人と接することで、自分自身大きく成長し、豊かな人生が待っていることでしょう。そのことは今まで皆さんの成長を支えていただいた保護者の皆様にとっても、皆さんと関わってきた我々教職員、そして、皆さんの力を待ち望んでいる地域社会にとっても、この上のない喜びであります。二つ目は「全てのことに於いて機会を逃さないようにしなさい」です。皆さんも幼いころから言われていたように、目の前に与えられたこと、課題、仕事等を後回しにするのではなく、積極的に取り掛かろうということです。全ての事において、機会を逃すことなく、「ああしてれば良かった。」という後悔の念が起らないように、素早く対処することを心に留めてほしいと思っています。

ここにいる卒業生の皆さんにとって、この川之江高校は「母校」で

あり、心の拠り所としての「ふるさと」であります。皆さんの成長に大きく関わった「母校」を、「ふるさと」を大切に思うとともに自分自身の人生をしっかりと見つめて前向きな気持ちで歩んでほしいと思っています。現代社会は予測困難な時代の途にあり、皆さんが歩むこれからの道は決して平坦なものばかりではありません。時に閉塞感にさいなまれることもあるかもしれません。しかし、「希望（ゆめ）・好奇心」を持ってたくましく、前向きな気持ちで歩むことによって、それらの壁を充実した彩りに変えて乗り越えてほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様が心身ともにたくましく成長し、本校を卒業していく姿を目の当たりにして、様々な思い出に万感胸に迫るものがあることと存じます。お子様たちは、一人ひとりがこの三年間で見事に成長してくれました。これからも皆様の御期待に応えてくれるものと確信しております。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時がやって来ました。これからは、皆さん自身が、今まで支え、育ててもらったふるさと・地域社会の中心となり、後進を支えていく側に立ちます。本校で培った知力・体力・気力を大いに発揮して、よりよい地域づくりに貢献しつつ、力強くたくましく人生を生き抜いてください。名残は尽きませんが、巣立ちゆく皆さんの御健勝、御多幸と一層の御活躍を心から祈念し、式辞といたします。

令和五年三月一日

愛媛県立川之江高等学校長 松木 義明